

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173800491		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」		
所在地	日高郡新ひだか町静内中野町2丁目12番6号 (電話) 0146-43-0706		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年4月3日

【情報提供票より】(22年 1月 30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 4人、	非常勤 5人、 常勤換算 7.9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:24,000 円 暖房費:7,000 円(10-4月)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,300 円	

### (4) 利用者の概要(3月 19日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.4歳	最低	79歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田クリニック・静和会石井病院・静仁会静内病院・山口歯科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」は、JR静内駅から車で6分程の自然環境に恵まれた静かな住宅地に位置している。一般住宅と同じ造りの建物は明るく開放的であり、災害時に備えて出入口を多く取り入れるなど工夫した造りになっている。運営者は在宅生活の継続支援を柱に、すべての人達が幸福に暮らせる地域社会の実現を目指して日々福祉事業に力を注いでいる。管理者は利用者が自然体で堂々と暮らせるような家庭的なホームを目指して、利用者の残存能力を活かしながら役割を持って生活できるように力を注いでいる。利用者は家庭生活の延長のような日々を送り、温かい雰囲気の中ゆったりと明るい笑顔で過ごしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前は取り組み項目はなかったが、以前の取り組み項目を各居室に掲示して家族に知らせると共に、常に職員全員で意識して日々ケアの向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を全職員に渡して、数項目毎に数ヶ月かけて各職員が記入したものをまとめ、数回のミーティングを行い職員全員で再確認して作成している。管理者は自己評価により各職員の理解度を確認する契機となり、職員は介護認識の再確認をする事ができたと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町内会長や民生委員、家族、地域包括支援センター職員が参加して、2ヶ月毎に開催している。事業所の運営規程や方針を参加者に説明し、年間を通じて事業所からの報告と共に外部評価や避難訓練を議題として取り上げている。町内会役員からは、災害時の近隣住民の役割が明確になると援助しやすいという意見も出されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月「今月のお便り」を作成して、個々の利用者の健康状態や介護状況、介護計画、金銭状況を家族に報告している。玄関に意見箱を設置すると共に、苦情相談窓口を入所契約書に掲載し、各居室にも掲示している。また、家族はすべて満足している事はないと常に意識し、管理者や職員は家族から意見や不満を聴く姿勢を大切にしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して、管理者が総会に出席したり2ヶ月毎の廃品回収に協力している。利用者が参加できる町内活動は少ないが、地元のお祭りなどに参加している。散歩の時に近隣住民と挨拶を交わしたり、事業所の夏祭りやお花見の時は近隣に案内状を出して交流する機会を作り一緒に行事を楽しんでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の「ゆったりとした流れの中で、楽しく一緒に。認知症であっても普通に生活できること。」に基づいて、1年半前に職員の声を活かし管理者の思いを入れた「ほほ笑い10ヶ条」という、理想的なケアを具体的な言葉で表現した事業所独自の目標を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念は玄関に表示し、事業所独自の「ほほ笑い10ヶ条」は大きくコピーして食堂に掲示している。職員は毎日「ほほ笑い10ヶ条」を目標にしながら勤務し、仕事終わりには反省を行っている。管理者は申し送り時や会議の時に取り上げ、日々職員を指導している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、管理者が総会に出席したり2ヶ月毎の廃品回収に協力している。利用者が参加できる町内活動は少ないが、地元のお祭りなどに参加している。散歩の時に近隣住民と挨拶を交わしたり、事業所の夏祭りやお花見の時は近隣に案内状を出して交流する機会を作り一緒に行事を楽しんでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員に渡して、担当項目を中心に数ヶ月かけて各職員が記入したものをまとめ、ミーティングを行い職員全員で再確認して作成している。管理者は自己評価により各職員の理解度を確認する契機となり、職員は介護認識の再確認をする事ができたと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や民生委員、家族、地域包括支援センター職員が参加して、2ヶ月毎に開催している。事業所の運営規程や方針を参加者に説明し、年間を通じて事業所からの報告と共に外部評価や避難訓練を議題として取り上げている。町内会役員からは、災害時の近隣住民の役割が明確になると援助しやすいという意見も出されている。		
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は頻繁に町役場を訪問して福祉関係の理解を深めてもらうように努めている。管理者は機会ある毎に役場に電話をして相談したり、2ヶ月毎くらいに各種申請などで訪問している。管理者や職員は町主催の研修会や講演会に参加して、サービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>4.理念を实践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「今月のお便り」を作成して、個々の利用者の健康状態や介護状況、介護計画、金銭状況を家族に報告しているが、事業所全体の様子の報告は行われていない。職員の異動は家族の来訪時に口頭で連絡するようにしている。		事業所全体の様子を知らせるホーム便りを次年度は3ヶ月毎に作成していく意向なので、その取り組みを期待したい。職員の異動は「今月のお便り」を利用して随時家族に知らせるような取り組みを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置すると共に、苦情相談窓口を入所契約書に掲載し、各居室にも掲示している。家族からは感謝の言葉をもらう事は多いがすべて満足している事はないと常に意識し、管理者や職員は家族から意見や不満を聴く姿勢を大切にしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で離職や介護力のバランスを取るために異動を行う事があるが、利用者には説明を行っている。離職や異動があった時、落ち込んでいる利用者には声かけを多くしたり、相性の良い職員を担当にしたり、離職した職員に手紙を書いてもらう事などで精神的なダメージを防ぐように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は職員の経験年数や力量に応じて外部研修に参加できるように配慮している。外部研修後はミーティングで報告して内容を職員間で共有している。内部研修は計画的に身体拘束や事例検討、介護実技・介護知識、救急救命講習などを行っている。管理者は今後職員教育に力を入れてサービスの質を向上していきたいと考えている。</p>		<p>職員の経験に応じた段階的な指導マニュアルを作成して職員教育を計画的に行っていきたい意向なので、その取り組みを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北海道グループホーム協議会主催や日高管内の研修会、勉強会などに参加して交流を行っている。また、法人や日高管内の数ヶ所の同業事業所を見学に行ったり、1日相互研修を行い職員の介護力を上げる事で、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に本人に見学に来てもらい、家族や本人の希望を聞いたり、分かりにくいような事を説明して安心してもらえるように配慮している。本人が来訪できない時は管理者と職員が1～2回訪問して、本人の状況を把握しながら顔馴染みの関係が作れるように工夫している。サービス開始後は寄り添う時間を多くして、トイレなどの意向を素早く把握できるように配慮している。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>管理者は利用者に対してケアの押し付けにならないように日々職員を指導している。職員は調理の仕方や味付け、洗濯物の干し方などを利用者学び、「有難う」「すまないね」という思いやりのある言葉や利用者の笑顔に支えられ、家族のような気持ちでケアを行い一緒に過ごしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>現在殆どの利用者は言葉による意思疎通が可能であるが、具体的な思いや意向を話してくれる利用者は少ないので、職員が状況を把握して問いかける事で思いを把握するようにしている。また会話による把握が困難な時は、表情や動作から利用者の思いや意向を把握するように努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>医療情報や家族、本人からの情報を収集して基本情報を作成し、担当職員が援助計画の原案を作成する。計画作成者は修正を加えて介護計画の暫定案を作成している。家族の来訪時に内容を説明し同意の押印をもらい、本人にも説明している。利用者の状態を職員間で確認し、新規計画は1ヶ月以内に見直している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月利用者の状態を確認し、状態が安定している場合は3ヶ月毎に見直している。入院時、怪我、歩行などの状態に変化が生じた場合は主治医、職員、家族とも話し合い、その都度作り直している。見直しの時期に家族の来訪がある時は意向を聞く事もあるが、更に家族の意向を反映させるためにも、今後は介護計画について運営推進会議の中で話題にしたいと考えている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の状態から必要な時は点滴に通い入院回避に努めている。通院送迎の他に、買い物や美容室など個人の希望に応じて送迎を行い、柔軟に支援している。デイサービスや同業者などの法人事業所が地域にあり、行事がある時や普段からも職員と一緒に出かけ交流している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望があればかかりつけ医の受診が可能な事を伝えているが、全員が24時間体制の協力病院の受診をしている。治療が必要な時は歯科の往診がある。その他は主治医の紹介で各協力医療機関の受診に職員が同行し、それぞれの主治医と連携を密にしている。職員は医療連携日誌で情報を共有している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用契約時に重度化や終末期の方針を文章で説明し同意を得ている。終末期の対応指針もあり、利用者の状態に合わせてその都度方針を話し合い、その段階になって同意書を交わしている。職員は看取りケアの研修を受講し、看護師に相談しながらマニュアルに沿って看取りケアを行っている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員が見やすい場所に10の禁句を掲示し、利用者に接する時は意識して対応している。利用者との会話で冗談でも気になる時は、その場でお互いに注意し合っている。トイレにさり気なく誘導し、排泄時には羞恥心に配慮して対応している。書類などは事務所に保管している。今後は来客簿の取り扱いやファイルの表紙など、個人が特定できないような工夫を考えている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床に合わせて朝食を提供し、レクリエーションの参加も強制しないで本人の意思を確認して対応している。金曜日は利用者とゆったりとお茶を飲み、会話を楽しむ触れ合いの日と決めている。利用者は歌や百人一首で遊び、散歩やウッドデッキで外気浴を楽しんでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で利用者の好みを聞いておき、職員は食材を見てその日の献立を決めている。利用者は能力に応じて、芋の皮むき、大根おろし、もやしの根とりなど調理に参加し、職員も一緒にテーブル拭き、おしぼり畳み、下膳、茶わん拭きなど食事の準備や後片付けを行い、食卓で同じ食事を食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	金曜日を除き、午後からいつでも入れる態勢を整えている。希望があれば午前中の中の入浴も可能である。順番は希望に応じ、週2回以上を目標に入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者にはコミュニケーションを密にし、タイミングに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事手伝いの他、カーテンの開け閉め、犬のおやつやり、洗濯物干しと畳み、玄関内を掃き、花壇の草取りや水やりなど、利用者の能力を引き出し役割に活かしている。事業所内では歌やボール遊びなどで過ごし、また、駐車場で焼き肉を食べ、買い物や遠出の外出行事を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周囲や近隣住宅の庭の花を見て歩くなど、暖かい時期には毎日のように散歩している。買い物、ドライブ、美容院、法人の他事業所を訪問したり、季節の外出行事を楽しんでいる。冬の時期もドライブで町を見物し数人で外食にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	5時～21時頃まで玄関を開けており、外玄関とユニット入口に音の違うセンサーを取り付け、その音で利用者の出入りを確認している。外に出た時は一緒に歩き、安全面に配慮している。運営推進会議で協力を呼びかけ、近隣にもチラシを配布し協力体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は日中の火災を想定し、自主訓練を実施している。運営推進会議で防災について話し合い、避難訓練の案内を回覧板に載せて周知し、近隣の人も利用者と共に参加して玄関外までの避難誘導を行っている。年に1回消防署による救急救命の訓練を全員が受講している。		年に2回実施する災害時の訓練に、消防署の協力の下に夜間を想定した避難訓練の実施を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録のアセスメントシートに食事量と水分量を記録し、全員の状態を把握している。水分が不足する時はコーヒー、サイダーなど好みの飲み物を提供し、1,500CCを目標にしている。食事は看護師と相談しながら栄養バランスに配慮している。		献立表を見てもらい、管理栄養士などによる専門的な栄養チェックの取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は増築しており、共用空間は明るく家庭的な設えで、日めくりや時計が掛けてあり、金魚鉢や観葉植物なども置かれている。台所と食堂に壁はなく、玄関から廊下伝いの居間は風通しが良く、外の景色を眺めてゆったりと過ごせる広い空間になっている。トイレなどは使い勝手良く工夫されており、さらに工夫を重ねている。また、災害時に備え数ヶ所の非常口がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口に違った暖簾を掛け、顔写真で自室が分かるようにしている。各室に備えている造り棚やクローゼットは有効に活用され、整頓されている。お気に入りの椅子やテーブル、鏡台、整理ダンスなどが持ち込まれ、家族の写真、動物の写真などが飾っており、その人らしい居室作りになっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。